

宿泊業 取組事例②（「小豆島国際ホテル」）

（（公財）日本生産性本部近藤雄主席経営コンサルタント）

日本生産性本部の鈴木康雄です。続いて、香川県にある小豆島国際ホテルの事例を紹介します。総室数は120室、従業員数は127名です。

改善指導ですが、このような流れで行いました。

改善事例の1つ目は料飲部門の改善です。分析により2つのムダが特定されました。宴会前に食器を探すムダと宴会後にパレットの中の残飯と食器を仕分けるムダです。合わせて1日当たり4.6時間のムダが特定されました。

それでは、作業改善の動画を御覧ください。（動画上映）料飲部門の改善のポイントは、5Sと作業改善と役割分担の見直しです。

その結果、労働時間は15%効率化され、年換算で1,200時間の削減ができました。

改善事例の2つ目は客室清掃部門の改善です。分析により4つのムダが特定されました。シーツをカウントするムダ、客室内資料配置のムダ、急須洗浄のムダ、忘れ物のフロント運搬のムダです。合わせて1日当たり4.6時間のムダが特定されました。

それでは、作業改善の動画を御覧ください。（動画上映）改善のポイントは、業務の見直しと効率化です。

その結果、労働時間は20%効率化され、年換算で2,058時間削減することができました。

最後に、私どもが留意した点ですが、現場を巻き込み、現場が主体的に考えて行動してもらい、自分たちの力で改善を行ったという成功体験をつくってもらうことです。その成功体験があれば、自分たちでさらなる改善を推進することが可能になると思うからです。以上です。